

宝ヶ池連続学習会第6回

『宝ヶ池界隈の歴史から見る森の利用とくらし』－岩倉盆地北部の史跡と山城－

2016年3月12日(土)

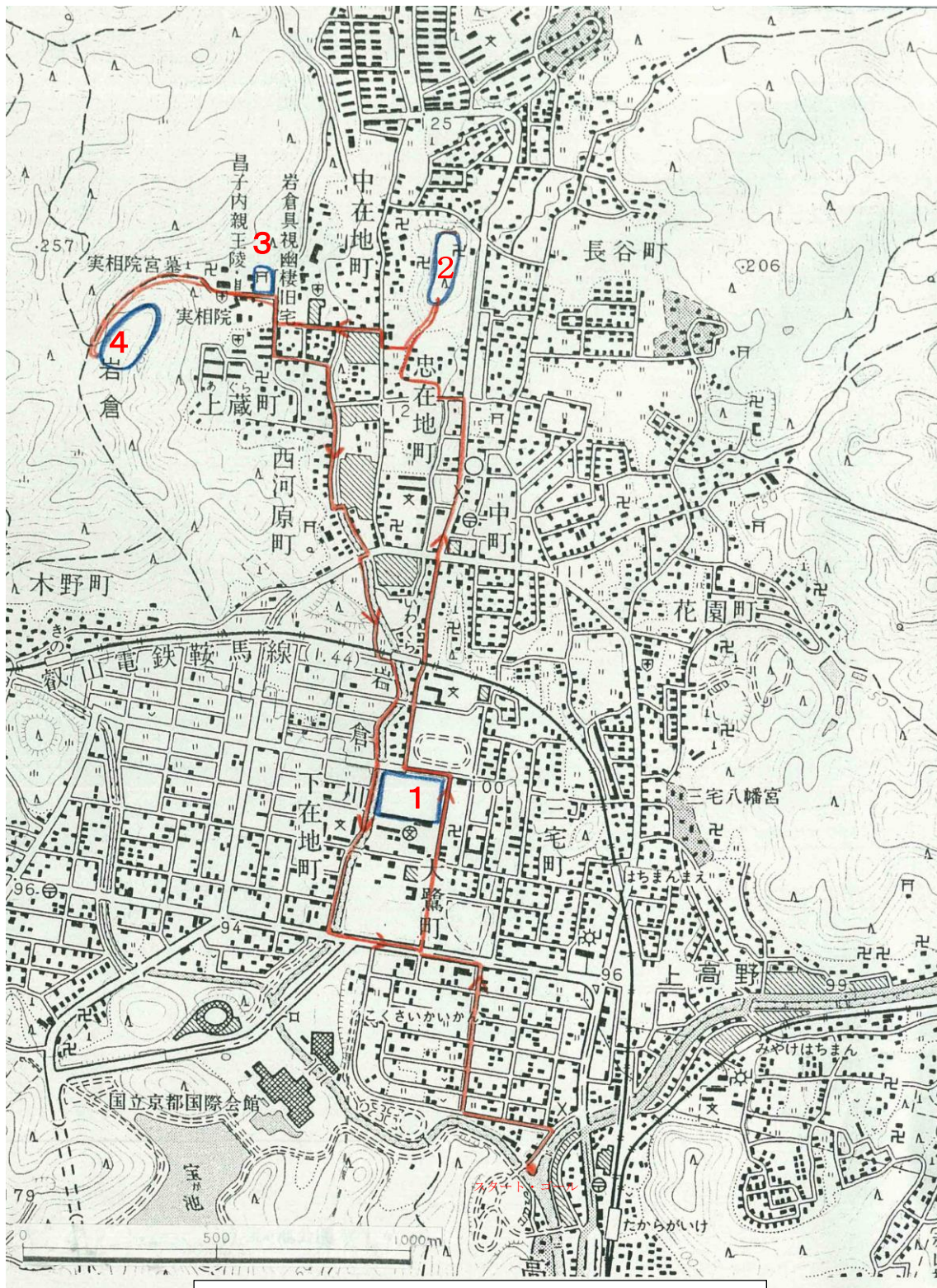


図1 史跡めぐり順路(歩行距離約8km)

## 史跡の概要

### 1、 岩倉忠在地（ちゅうざいち）遺跡

同志社小・中・高校建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代の終わりごろから古墳時代の初めごろまでのムラの跡が発見されました。調査では十数棟の竪穴住居や土坑墓（土葬のお墓）が見つかっており、多くの土器や石器が出土しています。

同志社小学校の校舎床下には、発掘された竪穴住居跡がそのままの状態で見られています。（一般公開はされていません）

### 2、 岩倉小倉山城

戦国時代の土豪、山本氏の本城跡と考えられています。二こぶ丘陵の両方に城があり、南側が主城で山本氏普段の居場所とみられます。山本氏は代々足利氏に仕えていて、将軍義昭と敵対した織田信長によって攻め落とされました。

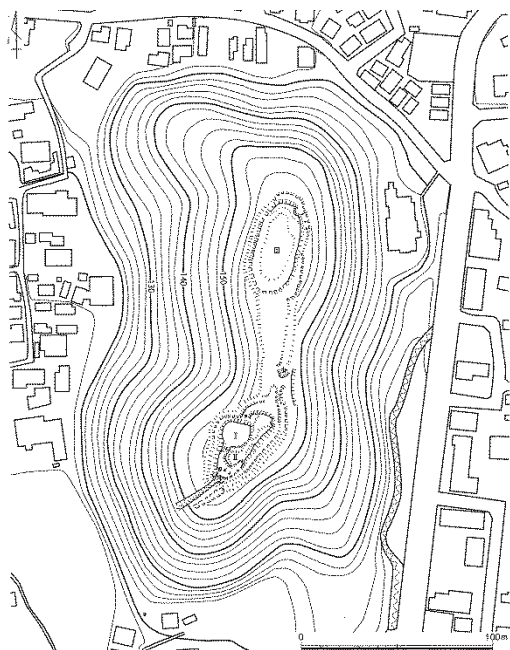
山頂付近に曲輪（くるわ）と呼ばれる平坦地が数段にわたって認められます。

### 3、 大雲寺旧境内

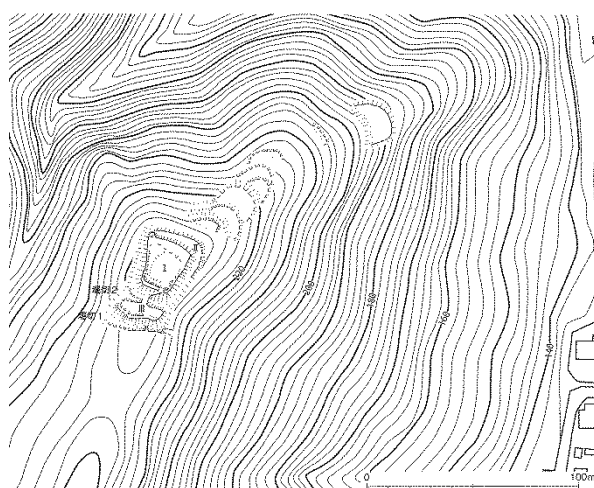
源氏物語（若紫）の巻に登場する「北山のなにがしの寺」にあたる考えられています。比叡山の真覚上人を開祖として、最盛期には数十の堂舎と千有余人の僧がいたと言われています。旧境内には閼伽井（あかい）や不動の滝があります。

### 4、 岩倉上倉城（あぐらじょう）

山本氏の支城、尾根の頂部に主郭がおかれ、背面（西側）は堀切（尾根を切断した堀）によって区画されています。東側は尾根の稜線に沿って、数段の曲輪が作られています。



小倉山城跡縄張り図



岩倉上倉城跡縄張り図